

人口減少や都市の縮退等に対応した緑の基本計画の策定技術に関する研究

Research on the method of making Green Master Plan to respond to population decline and degeneration of cities etc.

(研究期間 平成 25～27 年度)

道路研究部 緑化生態研究室
Road Department
Landscape and Ecology Division

室長
Head
研究官
Researcher
研究官
Researcher
研究官
Researcher

栗原 正夫
Masao KURIHARA
曾根 直幸
Naoyuki SONE
木村 優介
Yusuke KIMURA
上野 裕介
Yusuke UENO

We are researching basic planning technologies for greenery in response to population decline and degeneration of cities". In FY2013, the division organized existing knowledge from the perspective of responding to new social needs predicted to intensify in the future and to the functions of greenery, and at the same time, collected advanced cases of greenery plans in foreign countries.

〔研究の目的及び背景〕

都市のみどりは、身近な遊びや休息の場の提供、植物の蒸発散によるヒートアイランド現象の緩和、市街地火災時における延焼防止など、安全で快適な都市生活に欠かせない機能を有するインフラである。これまで公園緑地行政においては、“都市が拡大基調にある中で如何に緑を保全・創出するか”を第一に、緑の基本計画（都市緑地法第4条）をマスタープランとする計画的な公園整備・緑地保全・都市緑化を推進してきた。しかし今後は人口減少や都市の縮退等を背景に、“拡大を前提としない社会にあっても、みどりを通じたまちづくりによって人々の幸せな暮らしを実現する”ことを目指し、幅広い視点からの公園緑地行政またその指針となる緑地計画の策定へと発想の転換が要請される。

緑化生態研究室では、このような問題意識のもと、「人口減少や都市の縮退等に対応した緑の基本計画技術に関する研究（研究期間：H25～H27）」を行っている。平成25年度には、今後要請の高まりが見込まれる新たな社会的ニーズと緑の機能との対応の観点から既往の知見を整理するとともに、諸外国における緑地計画の先進事例を収集した。

〔研究内容〕

1. 新たな社会的ニーズに対応した緑の機能の整理

都市再構築戦略検討委員会¹⁾では、地方都市の将来について、未利用地の歯抜け的発生、孤立した高齢者の増加、その結果としての都市機能低下、地域経済・活力の衰退、災害への脆弱化等が指摘されている。このような見通し（図-1 にイメージを図示）を踏まえ、既往研究（文献数149）をもとに、「未利用地の農的活

用による生きがいの創出」、「公園利用による健康長寿の増進」等、想定される課題と対応する緑の機能を整理した（図-2）。今後個々の機能を発揮させるためのプランニングやデザインのポイントを整理する必要がある。

2. 諸外国における緑地計画の試みの把握

すでに深刻な人口減少や都市の縮退に直面し課題解決に向けた取り組みを先行している海外諸都市の行政資料を収集し、緑やオープンスペースの活用・処理に関する計画の内容を整理した（表-1）。日本の都市への示唆を得るために、各国の法制度や社会状況などの背景を踏まえた分析が必要である。

3. 「今後の緑の基本計画のあり方に関する研究会」の開催

本研究を進めるにあたり、平成24年度の緑の基本計画評価委員会に幹事として参加された研究者にご協力いただき、研究会を開催することとした。平成25年12月に第1回研究会を開催し、人口減少や都市の縮退等を想定した際に“都市の緑に求められる役割・機能の考え方”について、国内外の都市の状況を踏まえ、ご意見をいただいた。

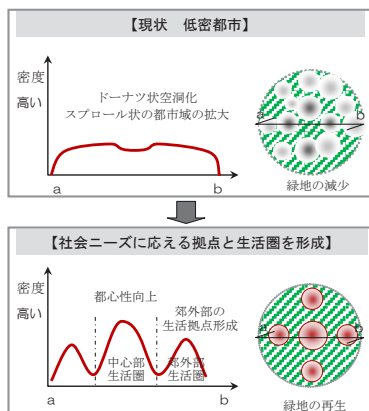
〔今後の予定〕

緑の機能は都市や社会のあり方と切り離して考えることはできない。今後とも、幅広く関連分野の研究機関や地方公共団体等と連携しつつ研究会を継続的に開催し、都市の将来像を見据えた研究を行って参りたい。

〔参考文献〕

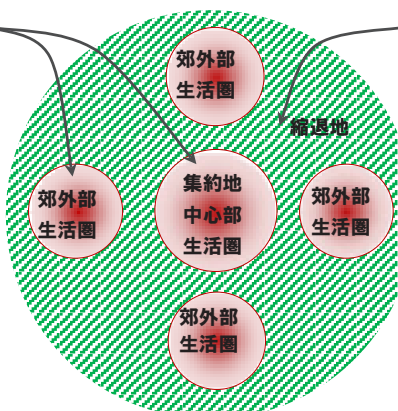
1) 都市再構築戦略検討委員会中間とりまとめ

http://www.mlit.go.jp/report/press/toshi01_hh_000013.html



集約地中心部や生活拠点での高度利用における環境形成に緑の機能を活用することが必要。

歩きたくなるまちの魅力づくり、公園を活用した健康向上、ヒートアイランド対策を含めた緑による都心部のアメニティ向上などが期待される。



主に生活圏外の土地所有者による適正な維持管理や用途転換を促すため、公園緑地部門、農林部門、環境部門が連携して自然立地的な土地利用方策の提案をすることが必要。
維持管理が適切に実施され、地域社会の持続性につながるような土地利用（生産性のある農地、隣人や住民団体への借地等）が期待される。

図-1 人口減少のプロセスにおける都市構造の変化（左）と公園緑地部門の対応イメージ（右）

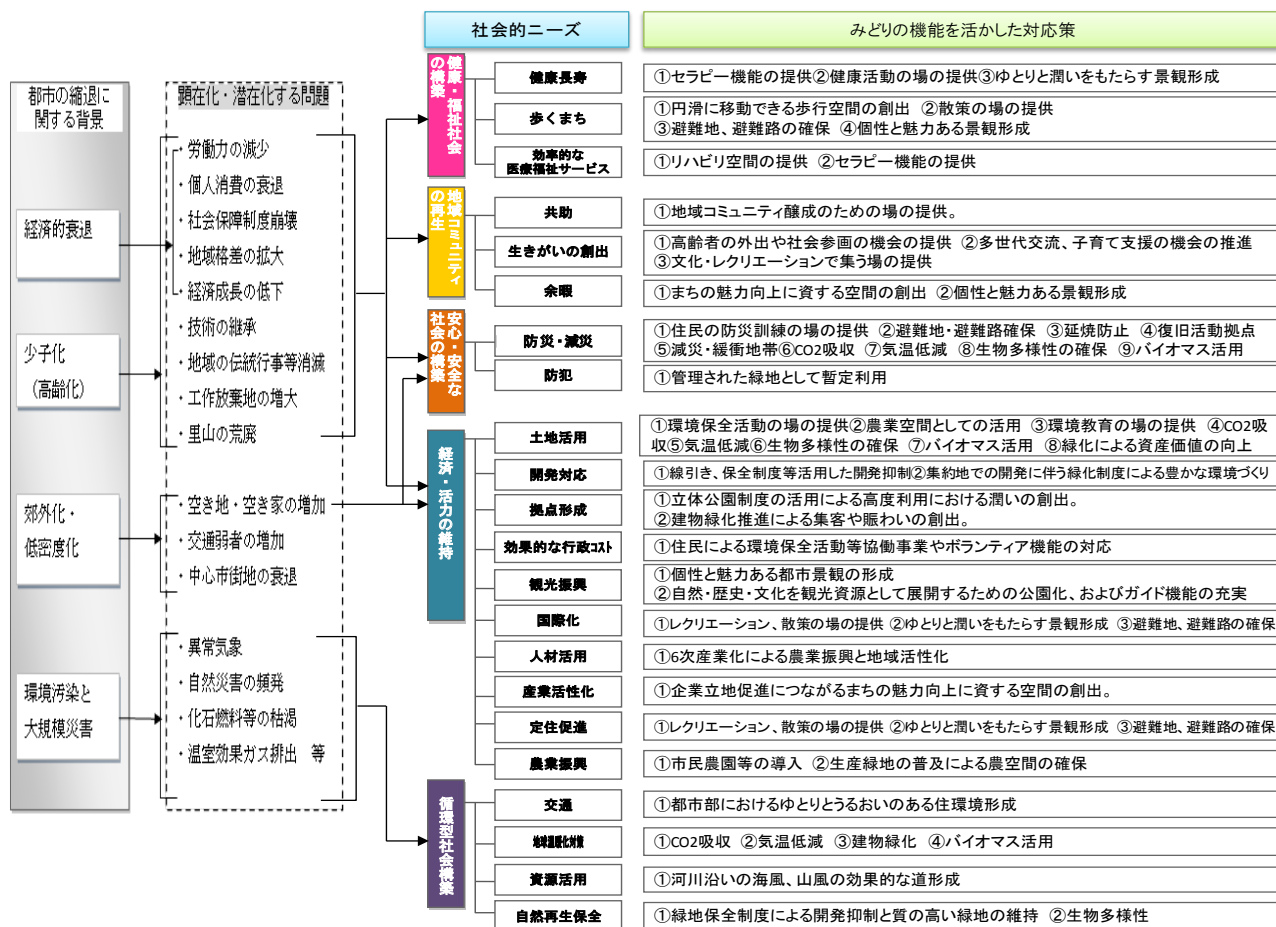


図-2 都市の縮退に対する社会的ニーズと対応する緑の機能の整理

表-1 諸外国における緑地計画事例の概要

都市（国）	計画・施策	概要
クリーブランド（米）	Re-imaging a more Sustainable Cleveland（2008）	都市の持続可能性向上を指標とした戦略的な未利用地の刷新計画
フィラデルフィア（米）	Green Stormwater Infrastructure（2011）	気候変動適応策として雨水流出抑制に着目した緑の保全創出計画
デトロイト（米）	Detroit future City（2012）	未利用地を活用した都市基盤となる緑地の創出計画
リバプール（英）	Green Infrastructure Strategy（2009）	経済価値、健康福祉に着目した緑の保全・創出計画
ベルリンほか（独）	Stadtumbau（Redevelopment）（2002）	減築による都市の集約化を進める緑地計画への反映